

花あふれるふくおか推進協議会（福岡県）

協議会構成団体：福岡県、福岡県花き園芸連合会、全国農業協同組合連合会
福岡県本部、福岡県花き市場協議会、福岡県花商団体連合会

対象品目

キク、トルコギキョウ、カーネーション、ガーベラ、タラスピ等



トルコギキョウ



カーネーション



ガーベラ

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・2024年4月から働き方改革法案により従来の輸送方法では消費者まで届く時間を要し、関東市場での消費機会を逸することが懸念される。
・そこで、花きの新たな輸送方法として、航空機を利用した輸送の可能性を検証した。

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・本県の主要品目であるキク（7品種）において、スマートフラワー規格（茎長70cm等）に対応した品種の選定と生産技術の確立について実証した。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

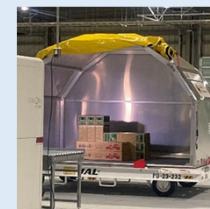
・生産者を講師としてフラワーアレンジ教室等を実施し、花育活動を通じ、取組後の花の購買行動に関するアンケート調査を行った。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・トルコギキョウの秋出し作型において、定植期が高温であることから、早期開花により切花長が短くなるといった品質低下が発生している。そこで、花芽抑制を目的に赤色LED電照を活用した品質向上効果を検証した。

< 取組の成果 >

・福岡～東京間で、1回調査を行ったところ、夜間に急激な冷え込みが発生するなど、温度管理が一定ではなかった。
・また、輸送途中で大きな振動が確認されたものの、商品性に影響はなかった。
・ただし、横箱出荷したガーベラでは首曲がりといった品質低下が確認された。
・航空機を利用した輸送では、輸送に要する時間が短縮できることから、産地での出荷スケジュールを前倒しする必要性は少ないことが想定された。



航空コンテナによる空輸

・目標の茎長70cm以上となった割合は79～100%で、すべての品種において概ね短茎栽培が可能となった。
・このうち、4品種は実需者から茎や花卉の強度、日持ち性が良好であるなど一定の評価が得られた。



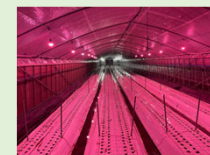
スマート規格実証

・5回の花育を実施し、319名（うち児童248名）が参加した。
・取組後のアンケート調査では、約30%が花を飾ることが多くなったとの回答があり、花育が一定の消費拡大に寄与することが示唆された。



フラワーアレンジ教室

・7月下旬～8月上旬の定植直後から赤色LEDを終夜電照した結果、品質向上効果は品種間差があり効果の高い品種では、節数が0.6節、茎長が2.9cm、切花長が2.4cm増加した。



赤色LED電照試験

< 今後の取組予定 >

・夏季品目における貨物専用航空機（フレイター）を用いた輸送試験を通じ、高温の影響や輸送コストを検証。結果を踏まえた事例紹介マニュアルを検討。
・輸送効率化に資する短茎規格の品種比較及び栽培試験（密植栽培の適応性）を実施するとともに、輸送試験を通じて、輸送コスト削減を検証する。
・子育て支援センター等での親子ワークショップを開催し、若い子育て世代に対し、花のある暮らしを提案するとともに、取組後の効果検証を行う。
・異常気象、燃料高騰などの外的要因に対応するため、キク等本県の主要品目における遮光資材や炭酸ガスの局所施用の有益性を実証する。

佐賀県花づくり推進協議会（佐賀県）

協議会構成団体：佐賀県花き生産団体連合会、佐賀県農業協同組合、株式会社佐賀花市場、株式会社唐津花市場、佐賀花商組合、唐津花商組合、佐賀県

対象品目

切り花：キク、バラ
カーネーション
スイートピー
トルコギキョウ 等



バラ



カーネーション

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・個選個販が大部分を占める本県の花き出荷状況において、現状を把握するための検討会を開催するとともに、課題に対する今後の取組方針を協議するため、専門家（流通関係者）を講師に招聘し講演会を開催した。

・他県における流通効率化に関する先進的な取組として、出荷管理システム導入事例や生産者の出荷段階での共通台車活用事例、品質保持技術導入事例を調査した。

2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・県民に花のある生活の豊かさや、やすらぎを感じてもらう機会を増やし、花を贈る習慣を定着させることを目的として、「フラワーフェスティバル」を開催し、県産花きやフラワーアレンジメントの展示等を行った。

3. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・バラ生産においてうどんこ病の発生による品質低下及び出荷本数の減少が課題となっている。また、カーネーション・宿根スイートピー生産において、高温・乾燥条件下、特に春季はハダニが多発生傾向にあり出荷本数に影響を及ぼしている。そこで、UV-B電照の導入による病害虫低減効果及び出荷本数への影響について実証を行った。

< 取組の成果 >

・花き品目別の出荷方法の把握や関係者間での課題の共有、他県の取組状況調査を行ったことで、生産者及び関係者の物流問題への関心が高まった。具体的には、生産管理システムや出荷管理システムの導入を検討する生産者が増加し、また、出荷後・輸送中の品質低下抑制のための新たな品質保持技術に対する関心が高まった。

・また、市場段階では出荷日の早期化に対応するため、冷蔵設備の追加など品質保持の充実化を図ることとなった。



検討会の様子

・フラワーフェスティバル来場者へのアンケート（回答数210人）の結果、花の購入用途としては自宅用が61%と最も多く、次いで、贈り物（47%）、仏花用（37%）が多いことがわかった。また、88%の人から「生花店で花を購入したい」との回答が得られた。さらに、フラワーフェスティバルを開催した地域における花屋（20件）にアンケートを行ったが、開催前後で来客数や売上、客層に変化はなかったことから、次年度以降の開催については、来場者が花店へ足を運ぶきっかけとなるような場所や時期等について検討が必要である。



県産花きの展示

・バラ生産において、UV-B電照区では10月～3月の農薬防除回数を慣行の18回から4回にかなり減らしたが、うどんこ病の発生は見られなかった。一方、対照区では定期的に計18回農薬防除を行ったにもかかわらず、うどんこ病が1割程度発生した。このことから、UV-B電照の導入により出荷本数の増加、農薬使用量削減が見込まれる。カーネーション・宿根スイートピー生産においては、試験区、対照区ともに現段階ではハダニの発生がなく、調査を継続している状況である。また、いずれの品目も出荷本数への影響について調査継続中である。



UV-B電照実証圃（バラ）

< 今後の取組予定 >

- ・流通面の改善を図るため、輸送中の品質保持や受発注方法等の課題に関して、先進地での情報収集を実施し品質保持技術の導入や受発注情報のデジタル化について検討を行う。
- ・令和6年度も引き続き、フラワーフェスティバルを開催し、花を贈る習慣の定着及び家庭内需要を増加させることで県産花きの消費拡大による本県花き産業の振興を図る。
- ・UV-B電照技術による病害虫低減及び出荷本数への影響について、引き続き調査を継続し、生産者への技術普及のためマニュアルの作成や研修会を開催する。

長崎県花き振興協議会（長崎県）

協議会構成団体：長崎県花き振興協議会各専門部会（きく、カーネーション、ばら、洋ラン、鉢物、草花）、全国農業協同組合連合会長崎県本部、県内5JA、長崎花き園芸農業協同組合、佐世保花き園芸農業協同組合、佐世保青果株式会社、(株)諫早花市場、長崎県

対象品目

切り花：きく、バラ、
カーネーション、草花
鉢物：鉢物・苗もの、
洋ラン



収穫期のカーネーション



展示会の開催

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- 現状において大消費圏から離れた本県の物流にはコストや時間がかかっているが、今後の輸送能力不足も懸念される。
- アンケートを実施し、生産者が抱える花きの流通課題を整理した。また、流通の効率化に向けて輸送業者との検討会を開催した。

2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- 「ながさきの花の展示会2024」を開催し、全国の市場や実需者に対し、県オリジナル品種を含めた長崎県の花きのPRを行い、県産花きの需要の拡大を図った。
- 展示会場では実需者ニーズとともに、花きの物流に関する課題についても把握するため、市場を対象にアンケート調査を行った。

3. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

【カーネーション・ハダニの発生抑制】

- 抵抗性が発達しやすいハダニの被害軽減を図るため、UV-B照射によるハダニの発生抑制効果及び防除労力の低減効果について実証を行った。

【カーネーション・日射比例灌水】

- カーネーションにおいて、品質・収量向上、省力化を両立する技術として「日射比例灌水技術」の実証を行なった。

- アンケート結果から、本県の花き輸送における現状および今後懸念される課題として、収穫から販売までの貯留・輸送時間の増加に伴う品質低下、出荷先の制限、軒先集荷の中止などがあることが判明、生産者、輸送業者、関係機関で共有した。
- 検討会後は、輸送性向上と併せて、各産地の輸送コスト縮減効果が期待されるが、これまで着手できなかった出荷規格および出荷箱規格の統一化について検討の意向を示す産地も出てきた。



流通検討会の様子

- 県内23の出荷団体がブースを構え、40品目を超える生花や観葉植物、加工花等を展示した。
- 県内外の実需者37団体に対し、産地のPRや今年産のジャンキウス新品種、出荷計画を紹介し、新たな取引(4市場4品目)や今後の販売についての検討がなされた。
- 市場へのアンケート調査結果から、県内産花きおよび国内花きの需要(出荷品目・数量の増)を把握するとともに、今後見込まれる花き流通の課題(流通量・遠方輸送の減少、品質維持等)について意見交換できた。



展示会の様子

【カーネーション・ハダニの発生抑制】

- ハダニの発生が多い9～11月において慣行区では7～18匹/株のハダニの発生が見られたが、UV-B照射区では0～0.3匹/株と、発生をほぼゼロに抑えることができた。実証を行なった2か所の圃場いずれでも、農薬散布回数を慣行区よりも10～26%減らしてもハダニの発生を抑制することができた。
- UV-B照射により、慣行区と比較し農薬散布回数を26%減少することができたが、経済性評価ではマイナスとなり、農薬散布回数を慣行の50%以下にする必要があることがわかった。



UV-B照射の様子

【カーネーション・日射比例灌水】

- 日射比例灌水を行うことで、土壌水分を安定させながら灌水量を慣行区の90%程度に減らすことができた。
- 1番花については開花期の前進化がややみられたが、品質の差は大きくなかった。日射量が増加する3月以降の切花品質調査が必要である。



日射測定装置設置状況

< 今後の取組予定 >

- 流通効率化に向けた検討結果を具現化していくため、優先度に応じて輸送業者や市場と具体的な検討を行っていく。
- 夏場の高温対策や冬春季の環境制御技術など生産現場の様々な安定生産技術の取り組みをPRすることで、周年で安定取引可能な市場の開拓につなげていく。
- ハダニの発生抑制については、更なる化学農薬の使用低減に向け、天敵等を組合わせた技術の取組を検討する。
- 日射比例灌水については、収穫期間を通した切り花品質向上、収穫量の増加を確認し、技術導入の経済性評価を行っていく。

熊本県花き協会（熊本県）

協議会構成団体： 熊本県経済農業協同組合連合会、県内11農業協同組合、熊本県花き園芸農業協同組合、熊本県花き事業協同組合、熊本県農林水産部、県内25市町村

対象品目

切り花：宿根カスミソウ、トルコギキョウ



宿根カスミソウ



トルコギキョウ

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- ・集荷場において、トラックへの荷積み作業を台車を使用し行っていたが、連結可能な台車を使用することで、荷役作業時間の短縮化を図った。
- ・花き市場の自社集荷ルートにおいて、トラックへの積込を手荷役で行っていたが、台車を使用することで、荷役作業時間の短縮化・省力化を図った。
- ・関東の花き市場から講師を招き、花き流通の効率化に係る講演会を開催した。

2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組【花きのアレンジメント体験や花育等を実施】

- ・中心商店街や花市場において、県産花きのアレンジメント体験や寄せ植え教室を実施。
- ・小中高校生等を対象に県産花きを用いたフラワーアレンジ教室や寄せ植え教室、コンテストを実施。

3. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- ・天草地域では、トルコギキョウの栽培において、ハウス内の遮光と保温のため寒冷紗と内張りを設置するが、高齢化に伴い設置作業の負担が大きくなっている。
- また、白熱球による夜間電照の光熱費が高騰している。
- このことから、多機能カーテンの使用による作業時間の軽減効果と消費電力の少ないLED電球を使用した夜間電照による生育への影響について実証実験を行った。

< 取組の成果 >

- ・台車を連結することにより、トラックへの往復回数が減少し、作業時間が単独台車559秒に対し、連結台車102秒となり、82%の作業時間短縮が確認できた。
- ・トラックへの荷役では、台車使用により、作業時間が積込みで1生産者あたり平均3分（40%）、積下ろしで平均30分（75%）削減可能ことが確認でき、集荷場での混雑解消や荷分け作業の簡略化、運転手の負担軽減につながった。
- ・講演会の開催により関係者の2024年問題に対する予備知識となったほか、今後の取組みについて考えるきっかけとなった。



連結可能な台車

- ・計200名が中心商店街で、計104名が職場での花きのアレンジメントを体験し、アンケートの結果、70%の参加者が「自分で花等の植物を買ってみたい」と回答。
- ・計300名が花市場でのアレンジや寄せ植え教室（月1回実施）を受講し、アンケートの結果、90%の参加者が「自分で好きな花を買ってアレンジを作りたい」と回答。
- ・合計411名の小学生等が花育体験を行い、保護者に対する花きの購入頻度に関するアンケートの結果、花育体験後花きの購入が増えた家庭は16%、今後花きの購入を増やしたい家庭は53%となった。
- ・戦略品目の花きの生産状況と日持ち品質向上の取組みのPR及び県産花きの紹介、アレンジメント作成方法のリーフレット配布などにより、県産花きに対する理解促進を図ることができた。また、若年層を含めた新たな需要の発掘につながった。



アレンジ完成品

- ・慣行では寒冷紗と内張りの設置・撤収に係る作業時間は1作当たり延べ10時間かかるが、多機能カーテンの設置により1作あたり延べ15分と大幅に作業時間が短縮（97%）し、作業効率の改善が図られた。
- ・LED電球による電照は、発蕾・花芽の発達を早める効果が期待され、照度も十分確保されていた。また、電気代は白熱電球の約2割程度で、5年以上の使用により、白熱電球よりもコスト削減になることが分かった。



多機能カーテン設置

< 今後の取組予定 >

- ・連結可能な台車については、今後花き協会八代支部が管理・運用を行う予定となっている。
- ・小・中・高校生、専門学校や大学生を対象とした花育教室の開催を継続して実施するとともに、花きの購入意欲向上につながるよう、身近な場所での花きの展示やフラワーアレンジ体験等を通じて消費拡大のPRを行う。
- ・さらなる流通の効率化を目指し、集荷先で出荷シールを添付する取組と台車物流を組み合わせた実証を行っていく。

大分県花き産業振興協議会（大分県）

協議会構成団体：大分県花き生産者協議会、(株)大分園芸花市場 丸果大分大同(株)、(株)別府花市場、(株)中津花市場、大分県花き消費拡大連合会、ジャパンフラワーネットワーク大分支部、日本フラワーデザイナー協会大分県支部、NPO夢一輪の会、フラワー装飾大分県技能士会、大分県華道協会、別府いけばな協会、県・農業団体

対象品目

切り花：トルコギキョウ
ストック 他



トルコギキョウ



ストック

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・物流の2024年問題による輸送力不足により、輸送コストの増加が懸念される。輸送コスト削減に向けて、現行の箱の強度の厚みや重量を落とし、市場への輸送に過剰な資材コストをかけない、低コストな新たな出荷資材の開発と輸送試験を実施した。

・試験は5品目（トルコギキョウ・ストック・カスミソウ・ラナンキュラス・スターチス）を対象に、1～3月において約30回実施した。

・実施した5品目において、平均で資材費が約25円（約10%）削減した。また、着荷状態についても現行の資材と比較して品質低下や箱のへこみもなく、良好であった。

・一方で、高温時期における品質低下の有無や出荷市場から他の市場への転送距離の増加による箱のへこみ等については今後検討が必要。



強度を改良した出荷箱



着荷後の品質調査

2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・小学生を対象に県産花きを用いた花育教室（アレンジの展示および花のスケッチ）を実施。

・若年層をターゲットとした県産花きの消費拡大を目的に県産花きを中心に利用したフラワーフェスティバルを実施した。

・「おおいたテーブルブーケプロジェクト」のPRと民間企業のEコマースとの提携による販路拡大に向けたキックオフイベントを実施した。

・県内43校で花育教室を実施し、約18千人の小学生が参加した。参加者からは「初めての花をたくさん見ることができた」「花のことがもっと知りたくなった」等の意見が寄せられた。

・フラワーフェスティバルとキックオフイベントの開催によりプロジェクトの認知度向上と新たな販売形態、販路拡大が図られ県産花きを中心としたブーケの契約件数が、イベント開催前（4～8月）の60件に比べ、イベント開催後には約170件増加し、合計（4～3月）230件となった。



フラワーフェスティバル
（花いけバトル）



キックオフイベント

< 今後の取組予定 >

・流通コスト削減に向けて輸送経路について、現行の陸路でのトラック輸送ではない、海路や空路による輸送試験の実施。

・「おおいたテーブルブーケプロジェクト」を通じた県産花きの消費拡大に向けたイベント開催。

・ホオズキ、スイートピーの夏季の高温対策に向けた技術導入実証。



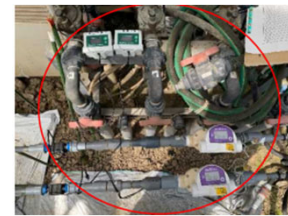
テーブルブーケ

「みやざき花で彩る未来」推進協議会（宮崎県）

協議会構成団体：宮崎県JA花き協議会、宮崎県花き生産者連合会、宮崎県花き卸売市場連絡協議会、宮崎県経済農業協同組合連合会、宮崎県

対象品目

切り花：スイートピー、
菊、ランタンキュラス



ランタンキュラスの自動灌水



洋マムの本県適応選定

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・花き輸送体制に係る物流視察調査

物流の2024年問題を受け、効率的・効果的な花き物流体制を構築するため幹線物流拠点の視察調査を実施した。

・ベビーハnzの横箱輸送調査

資材費・輸送費の高騰対策として、横箱輸送による経費軽減及び着荷品質調査を実施した。

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・新型コロナの影響で葬儀需要が減少し、キクの新規需要の開拓が求められている。輪ギクからの転換として葬儀以外にも使いやすく、花色花型が豊富でホームユース需要向けにも対応可能な洋ギク（洋マム）について、本県に適応した品種を選定するため栽培実証を行った。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・「花育」を通じ広く県民へ「花のある生活」の定着を推進するため、宮崎県内の花き市場・生産者・生花店・園芸店と連携した「花育」を実施した。また出前型と来店型を有効的に結びつける「花育」を実施し、宮崎県産花きの普及促進及び需要の掘り起こしを行った。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

①スイートピーにおける高輝度 LED を利用した補光による落蕾軽減効果の実証

②ランタンキュラスにおける自動かん水同時施肥法による省力化の実証

・運送会社・花き市場等も2024年4月～実際動いてみないと分からないが出来る対策は準備・検討中であった。物流会社・市場の意見に共通して産地から市場（販売先）までを通したDX化を進める動きを強く感じた。一部の産地・大型個人生産者が運送会社・市場と連携して進めているところもある中、宮崎県内でも生産者の作業効率・選果場の作業効率を上げる、支店間横持ち・集荷の見直しを行う上でDX化を進める必要性を感じた。・箱代2割減、輸送費0.97円/本減（東京着）の経費削減試算が取れたが、着荷にしおれが散見され品質不安が残り横箱導入に至れなかった。

・11品種について栽培実証を行った。切り花長が市場の出荷基準の切り花長 80cm 未満となった品種が2品種あり、今作は定植から消灯まで特に高温で経過したことから栄養成長期間のかん水が不足していた可能性が考えられる。このため、当該作型においては特に高温の期間を経過することから、高温による影響の少ない品種の選定や適切なかん水管理が重要であると考えられた。

・大人向けの花育で636名の参加者があり、アンケートで10代～40代の若年層が53%となり、参加者の半数以上となった。消費者の中心となる年齢層が変化していることが確認された。また参加者の99%が「また参加したい」と花育に期待を持っていることが確認でき連続した花育の実施の必要性を確認した。こども向け花育は1634名の参加者があった。宮崎県民に直接的に「花に触れ合う機会の創出」ができる貴重な機会であり、市場・生花店・園芸店と連携し時間的な視野に立って「消費者の創出」をする重要な事業であり今後も継続実施する必要があると考える。

①高輝度LEDによる落蕾軽減効果を図る実証を行った。補光区では無補光区に比べ落蕾本数が2品種で1.6本から6本と少なく高輝度 LED 補光による落蕾軽減効果が大きく、4 P 2 L 以上の発生本数も無補光区より2.5本と優れたことから、補光による安定出荷が期待できる。②自動かん水同時施肥法による栽培で省力化かつ減肥が可能。慣行と比べ2品種とも1.2～1.5本切り花本数が多く、1 番花の切り花形質も十分な品質であり、切り花本数も増加することが明らかになった。



関西ハブセンター



洋菊の花径比較



県産花きを説明



高輝度LED栽培

< 今後の取組予定 >

- ・運送業者と連携し荷捌き時間の短縮を図り出荷報告書の音声入力とCSVデータ発信システムのDX化を確立、出荷場業務の効率化研修会の実施。
- ・洋ギクの品種選定については、開花日および到花日数が、品種間に幅があるため、各品種の特性を把握してからの導入を検討。
- ・花育は「消費者の創出」をする重要な事業と確認。長期的な視野に立って毎年継続実施していく。
- ・実証は2月までの結果であることから、出荷期間である3月までの実績でLED補光による収量性の確認を行う。

鹿児島県花き振興会（鹿児島県）

鹿児島県花き振興会構成団体：

(株)鹿児島園芸花市場、鹿児島県花卉園芸農協、沖永良部花き専門農協、
JA鹿児島県経済連、鹿児島県フラワー協会、鹿児島県園芸商組合、
フラワーパークかごしま、鹿児島県

対象品目

切り花：スプレーギク
ソリダゴ
テッポウユリ「咲八姫」
トルコギキョウ



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・スプレーギク及びソリダゴの流通の効率化によるコスト削減を図るため、スマートフラワー規格出荷における適切な脱葉範囲及び輸送時の品質保持技術（品質保持フィルムの活用）に係る検討・実証を行った。

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・八重咲きテッポウユリ「咲八姫」の既存品種からの転換等による生産拡大を図るため、沖永良部島における球根増殖体制の構築に必要な実証や検討を行った。
・トルコギキョウについて、既存品種と比べて収益性の高い品種への転換を図るため、有望品種選定に係る実証を行った。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・若年層を中心とした花きの消費拡大を図るため、「フラワーフェスタinかごしま2024」を開催した。
○体験プログラムの実施
○県フラワーコンテスト、フラワーデザインかごしまカップの出品作品の展示
○県育成品種や話題の県産花きの展示など

< 取組の成果 >

○適切な脱葉範囲の検討

市場及び実需者への適切な脱葉範囲の調査の結果、スプレーギクは切り口から30～35cm、ソリダゴは20cmが適することが分かった。
この結果から、沖永良部島ではこれらの脱葉範囲での出荷を開始した。

○輸送時の品質保持技術の検討

市場及び実需者からの評価の結果、品質保持資材（品質保持フィルム）を活用した輸送は、慣行の輸送に比べて開封時の葉・花の萎れが少なく、5段階評価で評価5となり（慣行区は評価4）、切り花品質が良かった。
この結果から、沖永良部島では品質保持資材を活用した出荷方法に移行した。

品質保持実証
無し(左)・有り(右)

○テッポウユリ「咲八姫」

球根増殖実証の生育状況等を確認した結果、病害等の発生はなく、沖永良部島の環境下においても球根増殖が可能であることが分かった。

また、球根増殖体制検討会を開催した結果、沖永良部島の市町村、農業者団体等との球根増殖体制の構築に係る合意形成が図られた。

○トルコギキョウ

有望品種の選定に向け、45品種を対象に栽培実証を行った結果、収益性や自家育苗コスト等の実態を把握するとともに、有望品種候補を16品種選抜できた。



「咲八姫」球根増殖実証

○スプレーギク、ソリダゴ、スターチスなどの県産花きを花材としたフラワーアレンジメント（参加者59名）や、お花屋さんのお仕事体験等の体験プログラム（参加者96名）を実施し、アンケートの結果、回答者の7割から「満足」、3割から「おおむね満足」との評価を得ることができた。

○県フラワーコンテストの出品作品や、県育成品種「咲八姫」、話題の県産花きの展示を実施し、来場者アンケートでは「コンテスト作品の品種に興味を持った」、「「咲八姫」など、県産花きを初めて知った」などの意見があり、県内の消費者や生花店等に対する県産花きの認知度向上につながった。



お花屋さんのお仕事体験

< 今後の取組予定 >

・生産面：スプレーギク及びソリダゴの流通コスト低減を図るため、より安価な品質保持資材を活用した実証に取り組む。

トルコギキョウ及びテッポウユリ「咲八姫」の生産拡大を図るため、課題解決に向けた技術実証に取り組む。

・消費面：若年層を中心とした花きの消費拡大を図るため、花や緑に親しむ体験プログラムを組み入れたイベント「フラワーフェスタ」を開催する。